

第 2 回 茅ヶ崎市市民活動推進委員会 会議録

議題	<p>(1) 平成 29 年度実施協働推進事業実施報告</p> <p>(2) 平成 29 年度実施市民活動げんき基金補助事業実施報告</p> <p>(3) 平成 29 年度実施市民活動げんき基金補助事業評価</p> <p>(4) 平成 29 年度実施協働推進事業評価</p>
日時	平成 30 年 6 月 5 日 (火) 14 時 00 分から 18 時 40 分
場所	市役所本庁舎 4 階会議室 1
出席者氏名	<p>草野正弘 森祐一郎 椎野典子 秦野拓也 北川哲也 高橋準治 大江守之 中川久美子 水島修一 三觜健一 事務局 5 名 (市民自治推進課) 石井協働推進担当課長、前田課長補佐、遠藤、小坂、勝山</p>
欠席者	西野義一 石田貴一
会議の公開 ・非公開	一部非公開
傍聴者数	0 名
非公開の理由	<p>議題 (3) 及び議題 (4) については、茅ヶ崎市自治基本 条例第 14 条 3 号及び茅ヶ崎市情報公開条例第 5 条 2 号の 規定により非公開とした</p>

○大江委員長

まだいらしていない委員もいらっしゃいますけれども、始めさせていただきたいと思
います。

委員の皆様には、おとといに続きましてまたお集まりいただきまして、ありがとうご
ざいます。第2回の市民活動推進委員会を開催いたします。

本日の欠席は、西野委員と石田委員でございます。また、水島委員から少しおくれ
ていらっしゃるという旨のご連絡をいただいております。中川委員は。

○事務局

ご連絡はいただけていないので、見えると思います。

○大江委員長

もう間もなくいらっしゃる。

きょうの会議録署名人は、椎野委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いま
す。

議題は、次第のとおりでございまして、4件ございます。

議題（1）及び（2）は公開で行わせていただきます。（3）（4）は非公開という
ふうにさせていただきます。

事務局の方、（1）（2）の傍聴人はいらっしゃいますでしょうか。

○事務局

傍聴人はおりません。

○大江委員長

それでは、会議に入ります。

本日は、議題（1）といたしまして、平成29年度実施協働推進事業実施報告のうち、
報告会にご出席いただけなかった事業のご報告をいただきます。

まず、サーフ90ライフセービングクラブ様にお越しいただいておりますので、事業に
関しまして、5分程度の成果や感想、展望をご説明していただきまして、5分ぐらいの質
疑を行いたいと思います。

○サーフ90茅ヶ崎ライフセービングクラブ

おととい参加ができず、本当に申しわけございませんでした。海のほうは土日もイベ
ントがどんどん始まってしまっているため、参加できませんでした。ありがとうございます。
すいません。着席にてさせていただきます。

我々のところは、76ページから始まって82ページまでという中で、77のところに「実

施日程等」というところがございます。マナー啓発活動。今回は、29年度4月から10月までという形で、冬を控えてシーズンオフになった段階では、我々もちょっと集まりにくいということで、月1に削らせていただきました。

実際に連休中、要は4月の連休から始まって、ピークが5月の連休の終わりごろまでが一番利用者が多く、ごみの問題が一番出るところだったんですけども、去年は、ある程度の成果といたしますか、美化財団さんのほうの収集の中では、おとしより約3分の2までには減っているという状況でした。

今回は、30年度に関しては、これはどうしても言いたかったんですけども、連休中はゼロでした。全くゼロです。という成果が残せたことが、この2年間やってきたことが成果だったんじゃないかなというふうに思っています。

結果的な美化財団さんからの数値みたいなものは、年間なのでまだ出ておりませんが、見た目と持っていったら回収率に関しては、去年からことしに比べても、かなりの減量がされているというのが現状でございます。

だんだん人がしゃべって相手に伝えなければいけないというパターンに、皆さんいらっしゃっている方もなれてきてくれているので、チラシを持っていってもすんなり聞いてくれるというのがありますが、問題は、また別のもので徐々にほかのものに起こってきていますので、それはまた30年の問題という形になってしまいますけれども、駐輪場とか、そこら辺もなくなってきている状況の中で、今、トイレ前のところに芝生があって、そういう人たちが憩いとして過ごせる場所になってしまっているという、ちょっと悪条件になっているという状況もあります。今、それを打開するために、市の3課さんと藤沢土木さんとの調整を毎週のようにしながら、何とかしていこうという話で進めております。

今のところ、ご報告できるところは成功しかないもので、とりあえずその報告とさせていただきますと思います。よろしいでしょうか。

○大江委員長

ありがとうございます。それでは、皆様からご質問等をいただきたいと思います。どうぞどなたからでもお願いいたします。

○伊藤委員

先日、役所の方か財団の方がお答えになった中で、数値のようなものではないけれども、諸条件が重なってごみがふえているような発言があったんですけども、漂着ごみとか、いろいろなものがあるので、それはわかるんですけども、先ほど、サーフさんの報告から言うと、5月はゼロであったと。ほかの時期も実感的には減っているような感じがしますか。

○サーフ90茅ヶ崎ライフセービングクラブ

必ず、朝行くと、仮置き場というところが我々のごみ置き場になっているんですけども、僕はシートを開けて全部チェックするんですね。海のごみか、バーベキューごみかという中で、ふるいにかけるんですけども、それが今、ふるいにかける必要がない。とにかく海岸のごみをここに集めてきてくれているという、皆さんが場所もわかって、ここにはこういうものしか捨ててはいけないということがわかってきているんじゃないかなというところで。ただ、両サイド、毎年、毎年言っていますけれども、取りたい、ごみ箱を撤去したいというところは、まだ残っていますので、そこへ持っていくということは、相変わらずあると思います。

○伊藤委員

そういうことから言います、私は79ページにある評価書の一番下の欄のところ、何となく、もう少し関係者で考えてお書きになったほうがいいと思うんです。これが最終的な報告書になるのか、よくわかりませんが、「一概に言えないため」以下なんですけれども、それは一概に言えないと思うんですけども、「数値として評価することが困難」。何が困難なのか。それは皆さんわかると思うので、数値は一つの指標であることは間違いないし、それにうちかつアンケート、あるいは皆さんの所感をお書きになればいいと思うので、これだけだと、今の報告、現場にいらっしゃる方の報告とはとても違った印象を受けるので、ここはぜひ、こういうものは改善してほしいかなと思います。

○サーフ90茅ヶ崎ライフセービングクラブ

行政さんがやる、行政さんという言い方はおかしいですけども、行政の方たちが会社がお休みの日に、皆さんが担当で来ていただいて、アンケートをとる日が、人がいないとアンケートがとれないんですけども、去年もそうですが、ことしも、アンケートをとると決めていた日が一番人が少なかったという現状もあって、タイミングといいですか、これが毎週、毎週やっているようでしたら、ちゃんとした、1日何件というもののアンケートをとらなければいけないよというところからの割り出しをすれば、とてもわかりやすいんでしょうけれども、人がいないところでどうしてもアンケートをとりにくいというところで、多分この評価が出しにくいのかなというのはあるんですけども。

○伊藤委員

ということで、目標の設定や評価の設定の仕方を今回は直せないとしても、将来に向けて、どう直せるかという提言を積極的に、行政の方も、あるいは現場の方もしていただいたほうが、これはこの協働事業として続けるか、あるいは委託事業として続けるか、さまざまなご意見の中にさらされると思うので、こういう否定的な雰囲気だと、今、こういった会合を持つからこそ我々は実感できるのであって、ちょっと大丈夫なのかなという感じがします。

○サーフ90茅ヶ崎ライフセービングクラブ

実は今年度から委託業務としてやらせていただいております、その中でアンケート調査を実際に、今回、ゴールデンウィーク中、実施させていただいております、秋口にもシルバーウィークにかけて、バーベキューをやる方もいらっしゃる可能性もあるので、今、そちらをやるかどうかはまだ検討中なんです、それも含めて通年でアンケートの結果を通して、どれだけ周知できたかということ、それは将来的にマナーの向上につながるのではないかと、そういった数値として出せばいいなということは、現在、検討している段階ではありますので、そういった形で数値を明確に出せばいいなどは現在考えております。

○大江委員長

委託事業に移行しているんですね。

○サーフ90茅ヶ崎ライフセービングクラブ

そうですね。30年度、実際に進めさせていただいています。

○大江委員長

ほかはいかがでしょうか。どうぞ。

○椎野委員

それでは、今お話がありましたように、アンケートをしっかりとっていただいて、現実を把握して、目標値をちゃんとしていただくというのはとても大事なことです、現実として、先ほどのご報告の中で、だいぶ減量されてきたよということは、継続されているので、そういう実績が出たということは本当に喜ばしいことだと思います。ただ、お話の中で、トイレの前の芝生のところに人が集まってしまうとか、これが問題ということのご発言がございましたけれども、どういうことか、ちょっと説明していただけますか。

○サーフ90茅ヶ崎ライフセービングクラブ

トイレの前の芝生のところというのは、あの下には下水の管が通っている場所なんです。ですから、建物が建たない状況の場所なんですけれども、結果的には、あの場所で、例えば、イベントデッキを使ったり、海を使ったりするイベントをするときの、その団体さんたちが搬入をしたり、荷物を入れたりするための仮駐車場という役目の場所でもあるんですね。ないしは、災害のときには、あそこが消防さんなんか詰めて待機する。3.11のときも、あそこに消防隊がずっと詰めて庁議を凶るというような場所、スペースだったんですけれども、今は、134号線からそのまま、鎖1本しか出ていないので、またぐだけ

ですぐ人が入ってしまう状況なので、あそこに車を縦列して、バーツと皆さんとめて、バーベキュー道具を下ろして、その芝生の上をまず占領してしまっ、風除けになっているというのもあるんですけども、かなりたくさんの方たちがそこでやっってしまう。

なので、何かあったときにはここを通路として使うんですよという注意もしているんですけども、何かあったときには消防もここへ入ってきますからねということも言っているんですけども、次にまたパトロールへ行くと、大体が埋まってしまっている。今、それに関しては県土木さんにもお話しして、こういったときに非常時に使えないし、イベントがあったとき、車が先に入っていれば、そういったことはないんですけども、そうじゃなければ、また皆さんが。結局、芝が全部枯れてしまっているんですね。油をこぼしているのか、炭を落としているのかわかりませんが、せつかく芝生があつて、とりあえずは人が集まれる場所。バーベキューするための場所ではないんですけども、そういった場所だったところがなくなってしまうということで、おとといも県土木さんと現場を見てもらって、相談をしてきたところなんですね。あそこにバーベキュー客をふやして、ごみを。結局そこは茂みといいますか、中に通路がもう一本あるんですね。散策路みたいな。そこに今回10袋ぐらいのごみがあったというボランティアからの報告もあったくらいなので、この辺を注意して見ていかなければいけないなということをおととい相談したばかりなんですけれども。

○大江委員長

ほかはいかがでしょうか。

今、委託事業に移って、協働事業という枠組みから変わったときに、中身として変わったものというのはあるのでしょうか。

○サーフ90茅ヶ崎ライフセービングクラブ

中身として変わったことというよりも、今は3課ですけども、そのほかに土木さん、美化財団さんと打ち合わせしながらやっっていかなければいけないことがいっぱいふえてきたなということが、今までは、こんなに密にというか、3日に一度ぐらい、どこかと話しているということはなかったんですけども、今はそういう状況で、県と市がくっついた状態の形にも今はなっているんで、海岸に関しての環境保全とか、そういった部分ではやりよくなってきているのではないかなというふうに思っています。

○大江委員長

では、以上でご報告終了ということでよろしいでしょうか。

では、どうもありがとうございました。

それでは、続きまして、議題（2）のほうにまいります。

げんき基金補助事業について、3日にご都合で欠席されましたエルマー様のご報告をいただきます。最大7分ぐらいで。

○エルマー

まず、日曜日の報告会に出られず、ちょっと体調不良で代理も立てられず、出席できず、申しわけありませんでした。声もまだこんな感じなので、お聞き苦しいかもしれませんが、どうぞよろしくお願ひします。着席で説明させていただきます。

エルマーという団体は、昨年、ちょうど1年ちょっと前にみんなで立ち上げた、地域の子どもたちを中心に、アウトドア活動、茅ヶ崎に自然がいっぱいある、海もあって、山もあって、川もあって、そういった自然を、できるだけ手作りの道具とか、手作りの遊びで遊ぼうという、親子で体験しようという願ひを込めて、1年半前ぐらいに設立しました。その中で、今回、市民活動の推進事業げんき基金を使用させていただきまして、「体験の風を起こそう」という形でイベントを行いました。資料の29ページからスタートして、30、31ページと続きます。

「体験の風を起こそう」ということで、今回はカヤック体験を親子で体験してもらおうということでイベントを企画しました。柳島の夢わくわく公園前の小出川ですね。桜まつりをちょうどやっている辺りなんですけど、あの小出川で開催をいたしました。

1人乗りから3人乗りのカヤックを全部で7艇ぐらい準備いたしまして、インストラクター艇を3艇、それから、参加者は親子で乗ってもらったり、子どもだけで乗りたいという子もいたんですけども、そういった形で複数で乗ってもらって、大体1クール1時間から1時間半ぐらいの体験を行ってもらいました。

まず、小出川の上流でコースロープを使いまして、安全なところで方向転換の練習とか、カヤックだと水面がお尻の辺り、自分の目線の真下にあるので、お子さんなんかはちょっとドキドキしながら乗ったりするんですけども、そういったことも少しなれてもらって、それから、みんなで冒険に行くぞというような形で、そこからどンドン下流に下って行って、最終的に相模川の、東海道線に乗ると橋があると思うんですけども、大きな川に出る相模川に、あそこだと川幅が150メートルぐらいあるんじゃないかと思ひますけれども、そこに最終的に合流するんですけども、そこまで親子で、インストラクター艇が先導と、後ろで安全確保しながら、そこにたどり着くと。みんなで頑張っでこぐということ

で。
小出川の横幅5メートル、10メートルぐらいの穏やかな川の水面と、また、相模川に出ると海になってくるので、うねりがあったり、風があったり、波があったりということ

で、そうするとまた、こぐスピードとか、こぐ技術とか、こぎ方とかも工夫しないと前に進まなかったり、方向転換も風がないところとあるところでは全然違ったりするので、そんなことを親子で、見ていると、協力しながらとか、○○ちゃん、こっちこいでとか、お父さん、こうやってやってよ、みたいな声をかけながらやっているというのが非常によ

かったかなと思います。そんな形で、1クール1時間ぐらい、往復1時間ぐらいの体験を行ってもらいました。

それから、ここには書いていないんですけども、その後、この事業を使わせていただいたお金とは別に、我々の活動資金の中で、せっかくなのでということで、キャンプ場みたいなアウトドアブースがあるので、そこでマッチで火起こしを体験してもらって、子どもなんかマッチを見たのも初めてとか、そういった中で、マッチで火起こしをして、それで最終的にまきストーブにまきをつけて、みんなで鍋をつくって食べるとか、丸太切り競争とか、そういった、普段本当にできない子どもの子と、のこぎりを使ったりとか、斧を使ったりとか、そういう活動をしてもらいました。

参加人数は、親子で12人。6名、6名ということで、3月24日に行いました。

事業の成果と今後の展開ということですが、先ほど申しましたが、茅ヶ崎の豊富な自然の中で大人も子どもも本当に楽しく、初めての体験ばかりということで、本当に喜んでいただきました。身近にある川から海を利用して、子どもたちが、日ごろ近くにある海や川ですけれども、どうやって遊んだらいいのかわからないというのが大半だと思いますね。私もこんな真っ黒なので、海のスポーツをもともとやっているんですけども、そうでもない、海水浴ぐらいしか遊べないものを、どうやって楽しく遊べるかということで、お父さんお母さんも楽しそうにやってもらいました。

それから、先ほど言いましたけれども、親子のコミュニケーションをとりながら、協力してカヤックを前に進めるということで、コミュニケーションにも成果につながったのかなと思っています。

最後に書きましたが、当初の予定が、本当は10月の28と29の秋口にやる予定だったんですが、台風が直撃して、その前の週の21、22日にも、そのときに一番大きな台風がきて、茅ヶ崎海岸一帯が、ここは砂が、サイクリング道路が崩れてしまうような、非常に被害の大きな台風がきた直後の翌週だったもので、翌週も台風がきて、海もちょっと荒れていて、そういうのと、また、その前の週の残骸というんですか、丸太とか、海小屋も壊れちゃったりするような、海のところが汚いというか、まだ傷だらけという状態だったので、そんな中でできないこともないとはメンバーにも言ったんですけども、子どもたちがそこを見て、ちょっと怖がったりしたらよくないなということで、延期をさせていただきました。

延期となると、水の企画なので、どうしても11、12、1、2という時期では寒いので、3月。本当は5月ぐらい、今ぐらいが一番いいんですけども、年度内におさめなければいけないというのも当然あるかと思ひまして、3月ぎりぎりの24日ということで、1日の体験会ということにさせていただきました。

今後の展開という意味では、これに参加していただいたお父さん、お母さんの中で、別のグループで連れてくるからやってくれないかということで、親子20人ほどの体験会を別途その後2回ほどやっております。それも同じようにカヤックを体験してもらって、みんなで丸太切りとかマッチ火起こしとか、そういった形でどんどん口コミで広がっていっ

ているなという実感はあります。また今後も同じような企画を含めて、子どもたち、親子で楽しめる体験活動を続けさせていただければなと思っています。

以上です。ありがとうございました。

○大江委員長

ありがとうございました。それでは、ご質問、ご意見等に移りたいと思います。どうぞ。

○高橋委員

当初10月開催予定ということだったんですね。ということは、事前に募集とかをされているかと思うんですけども、当初の参加人数はどれぐらいだったのかということと、あと、どうやって募集したのかなという。

○エルマー

募集の方法は、インターネット、Facebookのページが主体で、私が知っているアウトドア体験活動が好きそうな方を中心に、口コミで広めてもらったというのが一番大きいですね。当初の10月のときの人数は、2日間開催だったんですけども、親子で40名近くおりました。

○大江委員長

予算と決算はちょうど4分の1になっているわけですけども、参加者も当初は48という。

○エルマー

これは48人ぐらいの設定で、2日間開催で、1日24名でやる予定だったんですが、こういう形で。日帰りの、最終的に3月のときも、マックスは24名という想定で募集をかけたんですけども、10月下旬に申し込むとなると、9月ぐらいから告知をするので、まだ暑さが残る中で、海で遊ぶということへの興味というのはあったんですけども、3月24日だと、告知が2月の中旬ぐらいになると、寒くてイメージがわいてこなかったかなというの、ちょっと残念なというか、日程的にどうしようもなかったんですけども、それで人数が減ってしまったのかなというの少し残念だなと。

○伊藤委員

33、34ページの決算を見ますと、その事業収入、十数人でもってちょうど保険料と見合っているという状態なので、これを見ると、決算の支出である34ページにある11万なんぼかのこれは、消耗備品でしょうか。こういったものが今後使えれば、カヤッカーの協力

さえあれば、結構続けられる。

○エルマー

そうですね。こちらは、11万のものに関しては消耗備品というよりも、ずっと使える備品であります。

○伊藤委員

ということは、10回も20回も軽く使える。ということは、あとはカヤッカーの協力さえあれば、参加費、1人当たり1,000円取れば、皆さんの方針によって続けられる見込みはあると。

○エルマー

そうですね。

○伊藤委員

あとは広報を。

○エルマー

そうですね。おっしゃるとおり、その次に友達20人連れてくるからやってくださいよ。そのときは、この11万円の備品があったので、参加費と当日のインストラクターの日当だけで済むという形だったので、1回1人1,000円という形でやらせていただいたんですけども、そういう意味では、必要備品はそろっているんで、当日の消耗品とか水物さえ会費で徴収できれば、運営は可能です。

○伊藤委員

実態的には、インストラクターに1,000円をお払いになっている。

○エルマー

インストラクターに最終的には、これでほぼほぼ残りがゼロに。3,000円ぐらいしか残らなかった。

○伊藤委員

カヤックの確保は、今後望めるんですか。今回7艇でしたけれども。

○エルマー

それ自体は、常時5は見込めて、あとは、協力者が参加してくれれば2艇で、7艇は。

最低 5 艇は確保できます。

○伊藤委員

ちなみに 1 艇当たり幾らぐらいのカヤックを使っているんですか。

○エルマー

7 万ぐらいのから 15 万ぐらいのもあれば。

○伊藤委員

しばらくため込めば、自前のものは買えるかもしれない。

○エルマー

ため込めば。

○伊藤委員

余剰金をため込めば、7 万円稼がれば。

○エルマー

そうですね。

○伊藤委員

わかりました。どうもありがとうございました。

○大江委員長

ほかはいかがでしょうか。

今年度は、今、どういう状況なんですか。

○エルマー

ことは、次のステップでは、申し込みはしていないですね。活動としては、今、カヤックを中心に、これのあと、4 月、5 月と 2 回やっているんですけども、今のところ、自主的な運営をしていきつつというところですね。またこういう補助金等を使える事業があれば、ぜひ利用させていただければなというふうに考えております。

○大江委員長

どうぞ。

○北川委員

今、自主的にやられているので、どれぐらい参加者はいらっしゃるんですか。

○エルマー

定期開催というわけではないんですけども、前回の4月と5月に行ったのも18名と20名と参加していただいて、スポット的に告知をして参加を募るという形なんですけれども。

○北川委員

わかりました。当初、広報について工夫をしてくださいというのがコメントに前回の申請段階ではあったというところで、おそらくまだまだやりようがきっとあるんだろうなと思ひまして、すごくおもしろい取り組みだと思ひるので、拡大していただければいいと思ひます。

○エルマー

ありがとうございます。そうなんですね。広報して、スタッフの確保も含めて、そのバランスを、大きく宣伝して100名来たときの対応ができるかどうかというのは、そのあたりのバランスも少し今考えながら、内部でもどこまで広げていこうか。どこまでこのぐらいにしておこうかという話はしているところであります。

○伊藤委員

すいません、時間を過ぎたので。小出川のカヤックというのはわりと一般的なんですか。

○エルマー

いや、そうでもないですね。あまりないですね。

○伊藤委員

ということは、小出川の利用にとっても珍しいことであるし、大人のカヤッカーにとってはあまりおもしろくない。

○エルマー

そんなにはおもしろくないかもしれない。おもしろくないというか、初心者、初めてやるという方には。

○伊藤委員

初心者導入にはとてもいい。

○エルマー

いいですね。それで、そのまま海に行ったときに、先ほど申しました、海と川との違いが歴然と、風で流されちゃって全然前に進まないという状況も出るのです。

○伊藤委員

導入にはとてもいい。

○エルマー

いいですね。ちょうどこれの翌週が小出川の桜まつりだったんですね。目の前でやっているのです、そういったところの地域イベントとも組み合わせると、もっともっとおもしろいものができるかなというのは感じました。

○大江委員長

どうぞ。

○椎野委員

イメージとして、茅ヶ崎といたら、何となく格好よく海とか川とかとありますでしょう。それで子どもたちにそういう体験をさせているというのはすばらしいと思うんですよ。私が伺いたかったのは、体験した親子の声。例えば、親子が楽しくてよかったよというので、お友達とロコミで2回、3回おやりになったと言ったんですが、そのときにどんな感情を持ったのか。何がよかったのか。そういうのを聞かせていただけるといいなと思ったんです。

○エルマー

1つは、子どもが、今の子育ての中で、どちらかというと、お父さん、お母さんが、あれだめ、これだめということが多分多くて、自分がやりたくても、本当にやりたいと言えない子なんかもあるのかなと。例えば、「マッチで火をつけようぜ」と言ったら、お父さん、お母さんは普通、熱くてやけどするからやめなさいとなるんですけども、そこを「やりたい子？」と言うと、ワーッとみんな手を挙げて、「のこぎり、これ持って木を切りたい子？」と言うと、走ってくるんですね。そういうのをお父さん、お母さんが見たときに、こんなことに興味を持って、こんなに目をキラキラさせて楽しくやっているんだというのが、お父さん、お母さんの印象でしたね。

だから、僕たちは、想像に任せて自由でいいんだよと。どうしてもなく危険なところだけはケアしなければいけないですけども、マッチで火をつけたところで、ちょっと

熱い、ちょっとやけどするぐらい、いいじゃないのというのはあれですけども、そういったことをお父さん、お母さんたちも、やってみて、意外とできるんだ、マッチつけられる、のこぎりでこんな丸太を1人で切れるんだというのを感じてもらったというのは、すごく大きい。お父さん、お母さんは言っていましたね。子どもは、何でも興味を持って、やりたい、やりたいとなるので、そこを最後は子どもだけで2人乗りのカヤックに乗りたいたと出たので、お父さん、岡さんは危ないからやめなさいと言ったんですけども、大丈夫だから行ってごらんと言って、ちゃんと見ていてあげれば、特別危険ではないので、そういう声がお父さん、お母さんから多く聞かれたのはよかったかなと思っています。

○椎野委員

ありがとうございます。

○大江委員長

それでは、時間になりましたので、以上で。どうもありがとうございました。

○エルマー

ありがとうございました。

○事務局

ありがとうございました。

委員長署名 大江 守之

委員署名 椎野 典子
